

2014年度第5回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日時：2014年12月23日（火） 午後3時00分から
- 2 場所：国分寺労政会館第2和室（3階）（国分寺市南町3-22-10）
- 3 議決権のある理事：8名、出席理事：7名
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、堀 渡、矢崎省三
欠席者：平山恵三
事務局：蓑田明子、吉田光美
- 4 報告及び協議事項
 - (1) 第1号議案 会員の動向について【報告】
 - ・2014年12月11日現在
正会員100名3団体 賛助会員43名1団体 計147名・団体（前回から変化なし）
 - (2) 第2号議案 町田市立図書館除籍図書のリ親事業について【報告】
 - ・5月に依頼を受けた町田市の除籍候補資料の横断検索重複調査は、7月に町田市に結果を返した。
 - ・同市で残すことにならなかった資料について、11/27 里親募集開始(対象17自治体、候補34冊)。申込締切り12/10。応募7自治体14冊。→里親成立6自治体12冊（不成立22冊）。成立分の大半は既に届けた。この他に高校の図書室へ1冊、日本図書館協会の資料室へ19冊（図書館関係の除籍本）の引き取り希望があり、届け終えた。日本図書館協会資料室は、今後も、広く図書館関係資料を受け入れてくれる見込み。
 - ・里親事業について、新たな提供申し込み等は、今のところなし。
 - (3) 第3号議案 多摩デポブックレット第10号の発行について【報告】
 - ・5月に開催した、2014年度通常総会の記念講演の内容を中心に松岡要氏に書きおろしてもらった。
 - ・図書館が求められる資料を提供するには、必ず図書館同士の連携を必要とする。だから多摩デポの提起は重要である。「図書館法」には図書館の基本理念は書いてある。しかしその理念を実現するための法制度は大変不十分なままで、むしろ弱くなっている。戦後の図書館に関する制度上の課題を掘り下げ、批判し、共同保存の基盤に繋がる図書館の協力連携を今後どうやって伸ばしたらいいか、新たな仕組み作りも提言された内容となっている。
 - ・内容はほぼ書きおろし、3校までとり入稿済み。（タイトル：『図書館連携の基盤整備に向けて— 図書館を支える制度の不備と「図書館連合」の提案 —』）1000部印刷。製作費は約30万円。納品は1/7（水）予定。
 - ・年始に発行する「多摩デポ通信33号」と共に、現物を会員に送付する。
 - (4) 第4号議案 第21回多摩デポ講座・見学会について【報告】
 - ・第21回多摩デポ講座として大宅壮一文庫見学会を12月6日（土）に実施した。
 - ・受入側条件により15名募集し、参加14名（当日不参加1名）。内訳は会員11名、会員外3名。
 - ・資料・運営・利用について丁寧な説明、案内をして下さった。
 - ・資料が刻々と収集・整理され、1971年の開館以来長くよく利用されている現役の施設であること。民間施設として維持できている秘訣、狭い施設で現物を収集・提供できている方法、越生分館との役割分担、災害への考え方や対策なども、短い時間ではあったが伺うことができた。

- ・個人で行ったのでは見られないところを見ることができ、説明も詳しく、見学会という形はよかった。
- ・利用・出納が非常に多く古い雑誌も多いので、傷みや劣化に今後どう対応していくかが課題と思われた。
- ・以上の参加者からの報告・感想のほか、複写サービスや索引の作成方法のことも話題になった。

(5) 第5号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・協議】

- ・前回理事会後の、(株)カーリルとの定例会の経過について報告した。
- ・10月の第4回理事会で、「協定書(案)」了承、10月29日のカーリルとの第2回定例会の席で、座間理事長と、吉本代表による調印が行なわれた。
- ・今後は、原則として月に一度のペースで定例会を行う。カーリルの二人は、月一度は東京に出てくるので、定例会日程は、その時の前後の日を調整することになった。
- ・共同研究により今年度中に一定の成果物を作り上げる。その上で、館長会等への発表を行う。
- ・定例会は、その後10月29日、11月26日、12月19日と行なわれた。定例会を続けて、一定の可能性が見えてきている。
- ・共同研究の、多摩デポの公表内容について、HP「こんな会です」の訂正案をもとに協議したが、文言の修正等意見が出て結論に至らなかった。事務局で検討し、最終案を提案する。

(6) 第6号議案 全国図書館大会公募型分科会の結果とその後の取り組みについて【報告・協議】

- ・11月1日(土)に、公募型分科会「図書館再生— 県立図書館を中心とした共同保存の可能性」を三多摩図書館研究所と共同企画で運営した。参加者は33名に留まったが、九州、近畿、北陸、中部、関東の県立図書館からの参加があり、特に午後からは共同保存や県立図書館の役割などについての、集中した講演や報告、質疑が行なわれた。
 - ・これまで紹介されたり論じられることが少なかった問題を浮上させることができた。これ一回きりにとどめず、今後どう続け、広めていけるのかを議論した。
 - ・大会要綱の該当頁増し刷りを多摩デポ会員に配布する。1月発行の「通信」に同封送付する。(理事長が大会実行委員長に「会員限定配布なら」という条件でOKをもらった)
 - ・さらに、会員外へこの会の内容と成果を次につながる形で広めていくかについて協議した。
- 記録として残すことは重要なので、新年度の課題として今後も検討を続ける。

(7) 第7号議案 第22回多摩デポ講座について【報告・協議】

テーマ：「多摩地域の図書館行政を支える図書館員に聞くシリーズ」第2回

講師の候補：小平市立中央図書館長の湯沢瑞彦氏と、八王子市立図書館長の中村照雄氏。現在、東京都市町村立図書館長協議会の会長及び事務局長の役についている二人であるが、施設の基盤もあり、保存に力を入れた図書館運営をされているお二人の話を伺う。

日時：多摩地域公立図書館大会(2月3・4日)の次週を第一候補として、2/11(水)の祝日なら午後、平日なら夜で交渉する。

→ チラシは、1月中旬発行の「多摩デポ通信」に同封できるよう準備を進める。

(8) 多摩デポ通信第33号の発行について【報告・協議】

・納品されたブックレット第10号を同封して、1月中旬には発行する。この間の動きとして、(株)カーリルとの共同研究開始の報告や方向性、全国図書館大会分科会の内容をある程度詳しく載せる必要がある。第22回多摩デポ講座の案内も載せる。

・「多摩デポ通信」第33号 予定

・印刷・発行日 1月17日(土) 発行(印刷・発送作業)

・原稿締め切り 1月5日(月)頃

・紙面予定

・理事長挨拶 ・図書館大会分科会の内容報告、参加者感想 ・カーリルとの共同研究開始の報告・現状と今後の方向性 ・第21回多摩デポ講座見学会の報告、参加者感想 1.5p ・町田市からの除籍資料の里親探しの結果報告・第22回多摩デポ講座の案内 ・多摩デポブックレット第10号発行の案内 ・その他

※「全国図書館大会 要綱 2014」の分科会部分の増し刷りと、第17回講座「図書館はどのような本を所蔵しているか」の内容要約を同封する予定。

(9) 情報交換

・事務所の契約更新 → 3月の契約は更新するが、「会議もできる場所、立川駅近辺、家賃は現状+α」ということで検討は続ける。

・多摩地域公立図書館大会 → 2月3日4日、多摩市で開催予定

・原稿執筆 → 『カレントアウェアネス』から執筆依頼あり

・次期年度総会の準備・役員改選 → 議案書案等1月事務局会議で準備、役員についても確認する。

・新都立多摩図書館の建設、構想 → 工事が始まっている。理事長、事務局長都立中央図書館訪問も考える。

★ 次回理事会 2月17日(火) 午後6時30分～ 会場：立川市柴崎学習館予定

★ カーリルとの第5回打ち合わせ会 1月24日(土) 午後7時から 柴崎学習館第2教室(地下)

★ 次回の事務局会議 1月22日(木) 午後6時30分から 柴崎学習館和室(2階)

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、清田義昭理事と齊藤誠一理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2014年12月23日

議長

議事録署名人

議事録署名人

